

保育実習指導のミニмумスタンダードVer.2に基づく 保育所実習の評価に対する提言

Proposal for the evaluation of the nursery teachers training based on
the Minimum Standard Ver.2 for childcare practice.

原 孝成
(Takaaki HARA)

Abstract :

本研究は、保育実習指導のミニмумスタンダードVer.2に基づく保育所実習の改善を提案する。以下の3点の取り組みを行った:1) シラバスと保育実習評価対応させた、2) 評価項目をパフォーマンス評価できるようにした、3) 例えば「子育て支援等の記録」のような評価票に対応した新しい実習記録を作成した。

This study suggests improvement of the nursery teachers training based on The Minimum Standard Ver.2 for childcare practice. Three improvement plans were suggested:1) correspondency of syllabus and nursery teachers training evaluation were satisfied, 2) performance assessment were used as nursery teachers training evaluation, 3) new record methods such as "record about the child care support" were developed.

キーワード : 保育所実習、保育実習指導のミニмумスタンダード、パフォーマンス評価

Keywords : childcare practice, The Minimum Standard Ver.2 of nursery teachers training programs, performance assessment

1. はじめに

2019年度から本学子ども学科においても、保育士養成課程の再課程認定後の新課程が開始され、今年度2021年4月より新課程に基づく保育所実習I、保育所実習II（以下「保育所実習I,II」と表記）及び保育所実習指導I、保育所実習指導II（以下「保育所実習指導I,II」と表記）が開始される。多くの保育士養成校における教科目において、実習に携わる教科目はその中心となる（高坂・和田・松田・千葉, 2002）と考えられる。従来、保育実習に関わる指導内容は各養成校の独自の取り組みが中心であったが、

2005年に社団法人保育士養成協議会（以下「保養協」と表記）から「保育実習指導のミニмумスタンダード¹⁾」（以下「保育実習MS」と表記）が提案され、保育実習のガイドラインが示されたことになる。その後、2017年に保養協より「保育実習指導のミニмумスタンダード2017年版²⁾」が出され、これが現在の「保育実習MS Ver.2」となっている。筆者は、「保育実習指導のミニмумスタンダード2017年版」の編集としてその取りまとめの作業に関わった経験から、本学子ども学科の保育所実習I,II及び保育所実習指導I,IIを「保育実習MS Ver.2³⁾」に準

拠したものに授業内容の調整を行ってきた。そのためには、評価票や日誌、授業や実習施設に配布する資料など改定を必要とする部分もある。本研究では、実習評価を中心に、今後の実習及び実習指導のあり方について提言を行う。

2. 保育実習指導のミニマムスタンダードの策定の経緯

2001（平成13）年に保育士資格が国家資格化し、保育士は名称独占を持ち専門性を持った資格として認知されるようになった。それを受け保育士養成校においては、高度な専門性を有する保育士を養成する体制づくりが必要だと考えられるようになった。しかしながら、当時保育士養成校の教科目における実習及び実習指導の重要性は認知されていたが、その指導体制は各養成校に任されており、統一したガイドライン等は作られてはいなかった。そのような状況のなか、保養協の専門委員会の2004年度、2005年度研究報告として「効果的な保育実習のあり方に関する研究⁴⁾」が刊行された。ここで、保育実習MSが示され、2007年に「保育実習指導のミニマムスタンダード⁵⁾」として出版された。その後、いくつかの養成校では、それを取り入れた保育実習や実習指導について検討がなされる（e.g. 相浦・高濱・那須・原・野中, 2008; 千葉, 2008）とともに、保育実習MSを基盤とした保育所実習指導のテキスト（e.g. 相浦・那須・原, 2008）が出版されるなど、保育実習MSは保育士養成において一定のインパクトを与えたと考えられる。

その後、2015（平成27）年の子ども・子育て新制度の施行に伴い、保育士の役割や保育施設の位置づけが多様化、高度化していくなか、2017年に保養協により保育所実習指導のミニマムスタンダードの改定がおこなわれ「保育実習指導のミニマムスタンダード2017年度版⁶⁾」が刊行され、これを基に2018年に「保育実習MS Ver.2⁷⁾」が出版された。現在、新ミニマムスタンダードを検討した研究（e.g. 山田, 2021）や保育実習MS Ver.2に基づく保育実習指導のテキスト（e.g. 相浦・那須・原, 2020; 和田上・那須・原, 2020）も作成されており、保育士養

成課程における保育実習のガイドラインとして、今後その位置づけはより重要になると思われる。

3. 保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2に基づく実習評価の課題1：養成校・学生（実習生）・実習施設間の共通理解

保育実習MS Ver.2には、「保育実習I（保育所）」（本子ども学科では「保育所実習Iに相当）と「保育実習II」（同「保育所実習II」に相当）それぞれの評価票のサンプルが作成されており、本子ども学科ではそれに準拠した評価票を使用している（資料1, 2参照）。保育実習MS Ver.2及びそれ以前の保育実習MSの評価票は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」に示されている、教科目の教授内容（以下「基準シラバス⁸⁾」と表記）を基に作成されている。保育実習MS Ver.2に示されているように、実習評価の評価基準が1) 厚生労働省の保育士資格の基準シラバスに基づく評価基準に関する共通理解、2) 学生に実習評価基準を開示、3) 養成校と実習施設間の連携であるとするならば、やはり統一した保育実習の目標と、その目標に対する評価基準を示し、養成校と学生と実習施設間で共通理解をはかる必要があると考えられる。そのための本子ども学科の取り組みとして、

- 1) 子ども学科の保育所実習I, IIのシラバスに基準シラバスに準拠した学修内容を明記する（表1参照）
- 2) 子ども学科のシラバスと対応するように、保育所実習I, IIの評価票を保育実習MS Ver.2に準拠したものに変える（資料1, 2参照）（参考資料として旧保育所実習I, IIの評価票を文末に掲載）
- 3) 評価項目について学生及び実習施設間で共通理解をはかるために、保育実習指導Iの事前指導で評価票の説明を学生に対して行うとともに、事前指導で使用する資料（資料3, 4参照）を実習施設に実習の手引きとともに送付する

表1 シラバスに明記されている保育所実習Ⅰ及びⅡの学修内容

保育所実習Ⅰの学修内容	保育所実習Ⅱの学修内容
<p>1. 保育所等の役割と機能について学ぶ。</p> <p>1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて学ぶ。</p> <p>2) 保育所保育指針を理解し、実際の保育の展開について学ぶ。</p> <p>2. 子ども理解について学ぶ。</p> <p>1) 子どもを観察し、記録することにより子ども理解について学ぶ。</p> <p>2) 子どもの発達過程について学ぶ。</p> <p>3) 子どもへの援助や関わりについて学ぶ。</p> <p>3. 保育内容・保育環境について学ぶ。</p> <p>1) 保育計画に基づく保育内容について学ぶ。</p> <p>2) 子どもの発達過程に応じた保育内容について学ぶ。</p> <p>3) 子どもの生活や遊びと保育環境について学ぶ。</p> <p>4) 子どもの健康と安全について学ぶ。</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録について学ぶ。</p> <p>1) 全体的な計画と指導計画及び評価について理解する。</p> <p>2) 記録に基づく省察・自己評価を行う。</p> <p>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ。</p> <p>1) 保育士の業務内容について学ぶ。</p> <p>2) 職員間の役割分担や連携・協働について学ぶ。</p> <p>3) 保育士の役割と職業倫理について学ぶ。</p> <p>6. 実習を通して自己の課題を明確にする。</p>	<p>1. 保育所の役割や機能の具体的展開について理解する。</p> <p>1) 養護と教育が一体となって行われる保育について理解する。</p> <p>2) 保育所の社会的役割と責任について理解する。</p> <p>2. 観察に基づく保育理解を行う。</p> <p>1) 子どもの心身の状態や活動について理解を深める。</p> <p>2) 保育士等の援助と関わりについて理解を深める。</p> <p>3) 保育所の生活の流れや展開を把握する。</p> <p>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携について理解する。</p> <p>1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に保育について理解を深める。</p> <p>2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援について理解する。</p> <p>3) 関係機関や地域社会との連携・協働について理解する。</p> <p>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価について学ぶ。</p> <p>1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程について理解を深める。</p> <p>2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行う。</p> <p>5. 保育士の業務と職業倫理について学ぶ。</p> <p>1) 多様な保育の展開と保育士の業務について理解を深める。</p> <p>2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理について理解する。</p> <p>6. 今後の自己課題を明確にする。</p>

- 4) 保育実習の事後指導において、評価票に基づき学生には自己評価を実施する
- 5) 保育実習の事後指導において、実習施設の評価と自己評価を見ながら実習事後の面談を実施する

以上の内容を含むように調整を行った。この時、保育実習MS Ver.2にも示されているように、実習施設での評価結果を学生に開示することは重要な取り組みではあるが、実習施設や学生の中には抵抗感があるのも実感していた。そこで、本学子ども学科では、評価票の表面に「表面の評価内容は実習生に開示されます。」(資料1,2参照)、裏面には「裏面は実習生に開示されません」と注意書きを書くようにし、実習施設に対して、共通理解をはかるようにし、実習施設からの学生に対して直接開示しにくい情報は

裏面に書けるようにした。また、保養協の「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究⁹⁾」では、養成校に対するインタビュー調査では、評価票に関して実習事後指導での取り組みとして語られることが多く、実習事前指導で評価票について具体的に解説する取り組みは、養成校・学生・実習施設間の共通理解を高めるためにも重要な取り組みであると考えられる。

4. 保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2に基づく実習評価の課題2：パフォーマンス評価

保育実習MS Ver.2に基づく評価票でもう一つ課題となるのは、評価項目の難しさがあると思われる。保養協の「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究¹⁰⁾」では、7割の養成校

保育所実習Ⅰ評価票

目白大学人間学部子ども学科

実習生	第 学年	学籍番号	氏名			
施設名称			施設長			⑩
			指導担当職員			⑩
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 () (合計 日間)					
勤務状況	出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日		
項目	評価の内容	評価上の観点	評価(該当するものの□にチェック)			
			実習生として非常に優れている	実習生として優れている	実習生として適切である	実習生として努力を要する
態度	意欲・積極性	・指導担当者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動している。 ・積極的に子どもとかわろうとしている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	責任感	・十分な時間的余裕持って勤務開始できるようにしている。 ・報告・連絡・相談を必要に応じて適切に行っている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	探究心	・日々の取り組みの中で、適切な援助の方法を理解しようとしている。 ・日々の取り組みの中で、自己課題を持って実習に臨んでいる。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	協調性	・自分勝手な判断に陥らないように努めている。 ・判断に迷うときには、指導担当者に助言を求めている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知識・技術	保育所等の役割と機能	・保育所等における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保育所保育指針に基づく保育展開について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	子どもの理解	・子どもとのかかわりを通じた観察と記録作成による具体的な子ども理解ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・子どもの発達過程について具体的な理解ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・子どもへの積極的な関わりや具体的な援助ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	保育内容・保育環境	・保育の計画に基づいた保育内容の実際について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・子どもの発達過程に応じた保育内容の実際について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・子どもの生活や遊びと実際の保育環境の関連性について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・実際の子どもの健康管理や安全対策について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	保育の計画、観察、記録	・全体的な計画及び指導計画の関連について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・記録に基づく省察と自己評価ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	専門職としての保育士の役割と職業倫理	・専門職としての保育士の業務内容について具体的に理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・職員間の役割分担や連携について具体的に理解できている。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
・専門職としての保育士の役割と職業倫理について具体的に理解できている。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
総合所見	(できていたこと今後課題になること)		総合評価 (該当するものに○)	実習生として () 非常に優れている () 優れている () 適切である () 努力を要する		

保育所実習 II 評価票

白川大学人間学部子ども学科

実習生	第 学年	学籍番号	氏名	
施設名称			施設長	⑩
			指導担当職員	⑩
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 () (合計 日間)			
勤務状況	出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日

項目	評価の内容	評価上の観点	評価(該当するものの口にチェック)			
			実習生として非常に優れている	実習生として非常に優れている	実習生として非常に優れている	実習生として非常に優れている
態度	意欲・積極性	・指導担当者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動している。 ・積極的に子どもとかかわろうとしている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	責任感	・十分な時間的余裕持って勤務開始できるようにしている。 ・報告・連絡・相談を必要に応じて適切に行っている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	探究心	・日々の取り組みの中で、適切な援助の方法を理解しようとしている。 ・日々の取り組みの中で、自己課題を持って実習に臨んでいる。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	協調性	・自分勝手な判断に陥らないように努めている。 ・判断に迷うときには、指導担当者に助言を求めている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知識・技術	保育所等の役割や機能の具体的展開	・養護と教育が一体となって行われる実際の保育について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保育所等の社会的役割と責任について具体的実践を通じた理解ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	観察に基づく保育理解	・実際の子どもとのかかわりを通して子どもの心身の状態や活動に対する観察ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保育士の動きや実践に対する観察ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・実際の保育所等の生活の流れや展開について把握できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携	・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実態について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・関係機関との連携の実際について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・地域社会との連携の実際について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	・全体的な計画及び指導計画の作成・実践・省察・評価と実際の保育の過程の展開について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・作成した指導計画に基づく保育実践の評価ができている。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
保育士の業務と職業倫理	・多様な保育の展開と保育士の業務内容の関連性について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	・保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自己課題の明確化	・保育士を目指す者としての自己の課題を明確にすることができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
総合所見	(できていたこと今後課題になること)		総合評価 (該当するものに○)	実習生として () 非常に優れている () 優れている () 適切である () 努力を要する		

資料3-1

目白大学 保育所実習Ⅰ 評価票（知識・技能） 評価の視点及び評価対象1

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
保育所等の役割と機能	・保育所等における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢の子ども1日の生活の流れを理解する。 園のデイリープログラムを踏まえた活動を把握する。 子どもの1日の生活の流れに即した、保育士等の動きを把握する。 登所・降所時、午前・午後、食事、排せつ、午睡など日頃のなかでの子どもの活動とその時の保育士等の援助や関わりを具体的に理解する。 	事前学習、オリエンテーション、デイリープログラム、参加実習、時系列日誌、反省会
	・保育所保育指針に基づく保育観について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの最善の利益」 「環境を通して行う保育」 「触れ合いと教育を一体的に行う」 「家庭や地域社会との連携」などの取組内容について保育現場を通して再確認する。 	事前学習、オリエンテーション、観察実習、時系列日誌、反省会 ※PやW/プラットフォームの理解 ※保育所保育指針の理解
子どもの理解	・子どもとのかわりを通じた観察と記録作成による具体的な子ども理解ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の子ども1日の生活や遊び、保育士等との関わりを記録する。 記録の振り返りを通して、子ども理解を深める。 記録の振り返りを通して、保育士等の援助や関りの意図を推察する。 記録を通して、実習指導員が保育士と学びを共有する。 	参加実習、時系列日誌の反省・考察、反省会
	・子どもの発達過程について具体的な理解ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の生活や遊びを具体的に理解する。 3歳未満児の生活や遊びを具体的に理解する。 3歳以上児の生活や遊びを具体的に理解する。 子どもの発達過程をまとめる。 	参加実習、時系列日誌の反省・考察、反省会 ※可能であれば、各年齢の保育に参加する。
	・子どもへの積極的な関わりや具体的な援助ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に子どもと関わり、具体的な援助の方法を理解する。 子どもの発達過程に即した、関りや援助の方法を理解し、実践する。 保育に参加し、保育士等の指導のもと生活や遊びの一部を担当する。 現在の関りや援助の方法の課題をみつける。 	参加実習、時系列日誌の反省・考察、反省会、部分実習

資料3-2

目白大学 保育所実習Ⅰ 評価票（知識・技能） 評価の視点及び評価対象2

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
保育内容・保育環境	・保育の計画に基づいた保育内容の実践について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な計画と指導計画の「ねらい」の関係を理解する。 実際の長期の指導計画のねらいと内容を理解する。 実際の短期の指導計画のねらいと内容を理解する。 指導計画と保育実践の関係を具体的に理解する。 	観察実習、時系列日誌、反省会 ※全体的な計画、月案、週案等をみせていただく ※保育所保育指針の理解
	・子どもの発達過程に即した保育内容の実践について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の発達過程に即した、保育内容を具体的に理解する。 3歳未満児の発達過程に即した、保育内容を具体的に理解する。 3歳以上児の発達過程に即した、保育内容を具体的に理解する。 子どもの発達過程に即した援助や配慮事項を確認する。 	参加実習、時系列日誌、反省会
	・子どもの生活や遊びと実際の保育環境の関連性について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の生活や遊びと環境構成の関係を具体的に理解する。 3歳未満児の生活や遊びと環境構成の関係を具体的に理解する。 3歳以上児の生活や遊びと環境構成の関係を具体的に理解する。 実際の保育室等における環境構成上の工夫点を記録する。 	参加実習、時系列日誌、反省会 ※環境構成図
	・実際の子ども健康管理や安全対策について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが健康で安全に過ごせるための配慮事項を具体的に理解する。 子どもが健康で安全に過ごせる環境構成について具体的に理解する。 実際の感染症等への対策や清潔の保持のための取り組みを理解する。 保育現場の避難訓練など危機管理対策の取り組みを知る。 	観察実習、時系列日誌、反省会 ※可能であれば保健計画や避難訓練計画をみせていただく
保育の計画、観察、記録	・全体的な計画及び指導計画の関連性について理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な計画と長期の指導計画の関係を理解する。 長期の指導計画と短期の指導計画の関係を理解する。 短期の指導計画と本日の保育実践の関係を理解する。 PDCA サイクルにそった指導計画の立案、実践、評価の過程を知る。 	事前学習、時系列日誌、反省会 ※全体的な計画、月案、週案等をみせていただく ※可能であれば、週案等の作成について話を伺う
	・記録に基づく省察と自己評価ができている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の日誌のなかで、自己課題を自己評価・考察し記録にまとめることができる。 「実習課題」に対する自己評価を「実習課題の自己評価」にまとめる。 反省会の参加や指導員が保育士等のコメントを通して、自分自身の振り返りを行うことができる。 自分の実習について省察を行い、改善点について検討することができる。 	時系列日誌の目標、反省・考察、反省会、「実習課題」、「実習課題の自己評価」、「実習を終えて」の記入

資料3-3

目白大学 保育所実習Ⅰ 評価票（知識・技能） 評価の視点及び評価対象2

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
専門職としての保育士の役割と職業倫理	・専門職としての保育士の業務内容について具体的に理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 保育士等の1日の動きを記録し、一人一人の子どもの最善の利益の保障について具体的に理解する。 保育士等の援助や関りを記録し、発達保障について具体的に理解する。 登所・降所時の保護者とのコミュニケーションの取り方を観察し、家庭との協力関係について理解する。 連絡帳やクラスだよりなど家庭との連携に関わる職務について具体的に知る。 	事前学習、オリエンテーション、観察実習、反省会 ※可能であれば連絡帳、クラスだより等をみせていただく
	・職員間の役割分担や連携について具体的に理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の保育の活動の中で保育士の役割分担について具体的に理解する。 保育士間の連携をスムーズに行うための方法について具体的に理解する。 看護師や栄養士等の他職種の職員との役割分担や連携について具体的に理解する。 登所から降所までの間で子どもや保護者に関する情報をどのように共有しているかを具体的に知る。 	事前学習、オリエンテーション、観察実習、反省会 ※倫理綱領については事前に理解しておく
	・専門職としての保育士の役割と職業倫理について具体的に理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーの保護のための具体的な取り組みについて理解する。 研修など保育士としての自己研鑽のための取り組みについて知る。 保育実践や研修の振り返りによる省察・評価を行い、自己課題をみつけるための取り組みについて知る。 自己管理やボウ・レン・ソウなど、保育士としての心構えを具体的に理解する。 	事前学習、オリエンテーション、観察実習、反省会 ※倫理綱領については事前に理解しておく ※保育所保育指針の理解

資料 4-1

目白大学 保育所実習Ⅱ 評価票（知識・技術） 評価の視点及び評価対象 1
 ・ある程度できていれば、□、よく出ていればで評価の参考とします。

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
保育所等の役割と機能の具体的展開	・ 養護と教育が一体となつて行われる実際の保育について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、子どもが安定した生活を送るための取り組みについて理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 生きる力の基礎を培う、5 領域を踏まえた「乳幼児期の学び」について理解できている。	事前学習、実習中の活動、時系列日誌やエピソード記録
	・ 保育所等の社会的役割と責任について具体的実践を通じた理解ができている。	<input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所での子育て支援や地域連携等取り組みを通して、保育所が担う社会的責任について理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 「子どもの人権の尊重」、「説明責任」、「個人情報の保護」などについて実践を通して具体的に理解できている。	事前学習、オリエンテーション、実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
観察に基づく保育理解	・ 実際の子どものかかわりを通して子どもの心身の状態や活動に対する観察ができている。	<input type="checkbox"/> □ 実際の子どものかかわりを通して、子どもの気持ちや考えを読み取り、記録することができている。 <input type="checkbox"/> □ 特別な配慮を必要とする子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態や活動を観察し、記録することができている。	実習中の活動、時系列日誌やエピソード記録
	・ 保育士の動きや実践に対する観察ができている。	<input type="checkbox"/> □ 保育士等の一人一人の子どもへの対応や援助の方法を観察し、記録することができている。 <input type="checkbox"/> □ 保育士等の実践を観察し、保育士等の思いや意図を読み取ることができている。	実習中の活動、時系列日誌やエピソード記録
	・ 実際の保育所等の生活の流れや展開について把握できている。	<input type="checkbox"/> □ 一人一人の子どもに配慮した、保育所の生活流れや活動の展開について把握できている。 <input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所での 1 日の生活の流れを把握し、それに沿って活動を展開することができている。	実習中の活動、時系列日誌やエピソード記録

資料 4-2

目白大学 保育所実習Ⅱ 評価票（知識・技術） 評価の視点及び評価対象 2

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携	・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 遊びや生活を展開するために、保育士等がどのように環境構成を行っているのか理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 環境構成を変えることで、遊びや生活の展開がどのように変化するか考えることができている。	実習中の活動、時系列日誌やエピソード記録
	・ 保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実践について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、保護者支援や地域の子育て家庭への支援としての具体的な取り組みについて理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、保護者支援や地域の子育て家庭への支援としての保育士等の役割について記録できている。	実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
	・ 関係機関との連携の実践について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、地域の関係機関（要保護児童対策地域協議会や児童相談所、児童家庭支援センター等）との連携の方法について具体的に理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、地域の関係機関における保育士等の役割について記録できている。	実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
	・ 地域社会との連携の実践について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、地域社会（民生委員や児童委員などの地域住民や小学校など）との連携の方法について具体的に理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 実習を行う保育所における、地域社会における保育士等の役割について記録できている。	実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	・ 全体的な計画及び指導計画の作成・実践・省察・評価と実際の保育の過程の展開について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 子どもの主体な活動する姿を引き出す指導計画を実際に考えることができる。 <input type="checkbox"/> □ 長期の指導計画、短期の指導計画を踏まえ、実際に指導計画を考えることができる。 <input type="checkbox"/> □ 実践において、ねらいや内容に即した適切な環境の再構成や援助方法を考えることができる。	指導計画、指導実習
	・ 作成した指導計画に基づく保育実践の評価ができている。	<input type="checkbox"/> □ PDCA サイクルによって、指導計画の立案、実践、評価の過程について理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 反省会の参加や指導担当保育士等のコメントを通して、自分の保育実践の振り返りを行うことができている。 <input type="checkbox"/> □ 自分の保育実践について評価・省察を行い、改善点などについて検討することができる。	指導実習、反省会

資料 4-3

目白大学 保育所実習Ⅱ 評価票（知識・技術） 評価の視点及び評価対象 3

大項目	小項目	評価の視点	評価対象
保育士の業務と職業倫理	・ 多様な保育の展開と保育士の業務内容の関連性について理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 子育て支援、育児相談などソーシャルワークとしての職務について具体的に理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 保護者との相互理解のための取り組みについて、具体的に理解できている。	事前学習、オリエンテーション、実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
	・ 保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。	<input type="checkbox"/> □ 「守秘義務」など保育士等の職業倫理について具体的に理解できている。 <input type="checkbox"/> □ 現代社会における様々な保育ニーズを理解し、それに伴う保育士等の職業倫理について具体的に理解できている。	事前学習、オリエンテーション、実習中の観察、子育て支援等の記録、反省会
自己課題の明確化	・ 保育士を目指す者としての自己の課題を明確にすることができている。	<input type="checkbox"/> □ 実習期間中、毎日、自己の課題を明確にし、それに対する振り返りを行うことができている。 <input type="checkbox"/> □ 実習終了時に、実習全体に対する自己課題の振り返りを行い、今後の自己課題を明確にすることができている。	日誌（目標）、反省会、「実習課題の自己評価」、「実習を終えて」

が独自の評価票を使用しているとの回答が得られている。これは、各養成校が独自の実習課題や評価基準を用いていることを反映しているともいえるが、保育実習MS Ver.2の評価基準の難しさもあると考えられる。同調査報告でも、保育現場から実践との乖離が課題としてあげられていた。この事とは、特に「子育て支援」に関する評価項目が含まれるようになったことが原因であると考えられる。この点は、最初の2007年の保育実習MSが策定された当初から語られていたものである。例えば、保育実習MSにおいても、「…子育て支援を項目としてあげたことに対して評価する養成校がある反面、実際に学生が実習中に地域や家庭との連携について学習できるか、という点で消極的な見解の養成校も多い」と述べられていた。また、千葉(2008)は、保育実習MSの保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲのそれぞれの評価項目の肯定率を調査している。その結果、肯定率が低値を示す大項目として「家庭・地域社会との連携」に関する項目があげられていた。保育実習Ⅰ(保育所)「家庭・地域社会との連携について理解させる」、保育実習Ⅱ「家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる」「地域社会との連携について具体的に学ばせる」、保育実習Ⅰ(施設)「施設・家庭・地域社会との連携について理解させる」では50%以下の低い数値を示し、保育実習Ⅲ「地域社会との連携について具体的に学ばせる」でも当該実習の大項目のなかで比較すると低い数値を示していることが示されている。このような、保育実習MSに基づく評価項目に対してネガティブな捉え方があるのは、従来の保育実習では、日誌の記録、環境構成や指導計画作成などの基礎技術面の向上が多くの保育士養成校で課題となっており、保育実習指導のなかに「模擬保育」などを取り入れる(千葉, 2002)ことが中心となる傾向があった。このことは、指導実習を実施することが保育実習の目的化してしまい、養成校・学生・実習施設の三者が保育実習を指導案の作成と指導実習の実施を最終目標と考えていた時期が長く続いていた結果だと考えられる。確かに、子ども理解とそれに基づく指導計画の立案、保育実践、実践の

評価(振り返り)の一連の流れが重要な保育士の活動であることを否定はしない。しかしながら、保育実習で実施されることの多い、部分実習や責任実習の指導案は、実際の保育現場で作成する機会はあまりなく、それよりも週案などの作成をした方が学生にとってより実践的な実習になるかもしれないが、現実的には実習生に1週間の見通しを持った計画を立案することは難しい面もある。従来の保育実習の在り方は、保育実習で体験した課題(指導実習などを実施すること)と、実際に勤務することになる保育現場で求められる課題(日々の保育活動を実践すること)に齟齬が生じ、いわゆるリアリティショックの一因となる可能性も考えられる。また保育者養成校の卒業生調査を行った原・高橋・おかもと・日暮・當銘(2021)の報告でも、「子どもの内面を理解しようとする」や「子どもの体調の変化に気づく」に続いて、「保護者への支援・助言を行う」が「保育者」という仕事をして専門性を強く意識する場面であげられており、保護者との関わりが現場で重要な活動であることは疑いようがない。このように、保育実習の場を将来保育士として勤務するために必要な知識、技術、態度を学ぶ場であると考えるのであれば、より包括的な保育士の役割を含む保育実習MSの評価項目は妥当性のあるものであると言える。

保育実習MSの評価票では単なる項目が示されているだけであったが、保育実習MS Ver.2の評価票では、各評価項目に「評価上の観点」が示されるとともに、別表として各実習の「知識・技術の評価内容に対応する実習体験や評価のポイント¹¹⁾」が示されている。これは、保育実習MSの評価票では項目が示されているのみであったことへの反省として、各評価項目のポイントを養成校・学生・実習施設間で共有するための取り組みと考えられる。そこで、本学子ども学科では、保育実習MS Ver.2に基づき、実習ごとに「評価票(知識・技術)評価の視点参考例」を作成することとした。尾崎は、保育実習の評価方法として「評価観点」を横軸、「学修状況の度合いを示す尺度」を縦軸にしたマトリックスで、それぞれの尺度には観察可能な特徴を示した記述語が記されるループリックによ

る評価方法を示し、評価しようとする能力や技術を実際に用いる活動の中で評価しようとするパフォーマンス評価の重要性を指摘している(尾崎・中村, 2017)。このような考えを参考にし、「評価票(知識・技術)評価の視点と評価対象」を作成した(資料3,4参照)。

- 1) 「評価の視点」: 評価票の評価項目を大項目、小項目とし、各小項目にいくつかの具体的な学生が実習中に理解すべきことや実践すべき行動として示し、それらの指標をチェックすることで評価できるようにした(保育所実習Iでは各小項目に四つの指標で評価、保育所実習IIでは各小項目に二つの指標がありそれぞれに「できた」もしくは「よくできた」で評価)
- 2) 「評価対象」: 各小項目の評価チェックを行う際に、実際に評価の対象となる実習生の活動や記録などの成果物の事例を示した

以上のような取り組みを行った。これまで「保護者支援」について理解することが評価の対象になるとき、「実際に、実習生に保護者支援を行わせることは難しい」という考えになりがちであるが、あくまでも実習生が理解するのは「保護者支援」として現場の保育士が行っている活動を理解することである。そのことを、「現在いる実習施設で行われている保護者支援の取り組みを知る」ことや「そこで、現場の保育士がどのような活動をしているかを知る」という具体的なパフォーマンスとして明記していくことが重要であると考えられる。このチェックリストは、先にも述べた通り実際に授業の中で学生に対して説明するとともに、実習施設にも送付している。しかしながら、現段階では、それ自体が評価票になっているわけではなく、あくまでも評価をサポートする資料という位置づけである。

5. 保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2に基づく実習評価の課題3: 評価項目に対応した実習記録の改定

さらに、「評価対象」を整理していく中で、評価の対象となる学生の成果物や活動の整理を

行った(資料3,4参照)。

- 1) 保育所実習Iの評価票の大項目「保育所等の役割と機能」に対応する評価対象として、実習のオリエンテーションや事前学習を通して自らの実習施設のパンフレット等を確認し、一般的な保育所の理解ではなく、その実習の当該施設の概要やデイリープログラムを理解することを評価の視点とし、実習日誌に収集した資料を張り付けるページを作り、評価の視点が見える化できるようにした。
- 2) 保育所実習Iの評価票の大項目「保育内容・保育環境」においては、小項目「保育の計画に基づいた保育内容の実際について理解できている」、「実際の子どもの健康管理や安全対策について理解できている」が含まれており、同じく大項目「保育の計画、観察、記録」においては小項目「全体的な計画及び指導計画の関連について理解できている」とう評価項目がある。さらに、保育所実習IIの大項目「指導計画の作成、実践、観察、記録、評価」においてはこれまでも述べてきたが、従来の保育実習では、毎日の日誌の記述と指導実習のための1日もしくは一部の指導案を作成することに終始しがちであった。先にも述べたように、保育実習が保育士としての実務を理解する場であるとすれば、全体的な計画や長期の指導計画(月案等)、短期の指導計画(週案等)のようにより実践に関わる指導計画の実際を理解し、保健計画や避難訓練計画など様々な計画に基づき保育士の業務が遂行されていることを実習を通して学生が理解できるようにした。
- 3) 保育所実習Iの評価票の大項目「子ども理解」においては小項目に「子どもの発達過程について具体的な理解ができている」が含まれ、同じく大項目「保育内容・保育環境」においては小項目に「子どもの発達過程に応じた保育内容の実際について理解できている」が含まれている。保育所実習I日誌としては従来通りの時系列の記録を使用するが、実習施設の状況に配慮しつつ各年齢での実習を行うことを推奨するようにした。従来、実習施設でどのクラスに配属されるかは、当該施設の判断に任せることが多く、保育実習MS

資料

保育所実習 I 評価票

目白大学人間学部子ども学科

実習生	第 学年	学籍番号	氏名		
施設名称			施設長		印
			指導担当職員		印
実習期間	平成 年 月 日() ~ 平成 年 月 日() (合計 日間)				
勤務状況	出勤 日	欠勤 日	遅刻 日	早退 日	備考
項目	評価の内容	評価(該当するものをチェック)			所見
		実習生として優れている	実習生として適切である	実習生として努力を要する	
態度	基本的な実習態度 (礼儀、挨拶、言葉遣い、服装等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	意欲・積極性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	責任感(時間・規則の遵守)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	実習に対する目的意識	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	協調性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	自己の健康管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
知識 技術 判断	保育所に関する基本的な理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	保育所の一日の生活の流れの理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	子どもの発達理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	保育課程、指導計画の理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	基本的な保育技術の習得	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	家庭・地域社会との連携の理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	子どもへのかかわり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	健康・安全への配慮	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	実習日誌の記録	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
職員のチームワークの理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
保育士の職業倫理(守秘義務等)の理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
総合所見				実習生として ()優れている ()適切である ()努力を要する	
				総合評価 (該当するものに○)	

5) 最後に、保育所実習Ⅱの評価票の大項目「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」において小項目「保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実態について理解できている」、「関係機関との連携の実際について理解できている」、「地域社会との連携の実際について理解できている」が含まれてる。先にも述べたように、この部分が評価困難であると認知されていると思われる。そこで「子育て支援等に関する記録」という実習記録を新しく作成した(資料5参照)。これは、保育実習期間中に預かり保育や休日保育など事業や園庭開放を行い近隣の保護者と子どもに対して遊びの場の提供を行っている実習施設などで、一日そこでの保育士の活動に実習生として参加し日誌として記録をする。また、そのような事業を実施していない実習施設や実習生が参加することが難しい事業の場合、そこでの保育士の役割についてインタビューを行い、その内容を記録するためのものである。これらの記録を実習生の成果物として評価対象とするためのものである。

6. まとめ

本学子ども学科では、保育士養成課程の新カリの実施に伴い、保育所実習Ⅰ,Ⅱおよび保育所実習指導Ⅰ,Ⅱを保育実習MS Ver.2に準拠し学修内容の整理を行った。そのためにまず、保育実習のシラバスと評価票の対応と、養成校・学生・実習施設間の共通理解を進めるための取り組みを行った。次に、評価票を学生のパフォーマンス評価となるように、評価項目ごとに「評価票(知識・技術)評価の視点参考例」と「評価対象」からなる評価のための補足資料を新たに作成した。最後に、「評価票(知識・技術)評価の視点参考例」と「評価対象」対応できるように、保育所実習Ⅱでは日誌として新たに「子育て支援等に関する記録」をつけるなど、従来の実習記録の改定を行った。

この報告は、保育実習MS Ver.2にともなう新しい保育実習にかかわる取り組みの1例であり、今後各保育士養成校の実習指導の在り方の議論のきっかけになることが望まれる。

【注】

- 1) 全国保育士養成協議会(編)(2007).『保育実習指導のミニマムスタンダード—現場と養成校が協働して保育士を育てる—』北大路書房
- 2) 一般社団法人全国保育士養成協議会 保育実習指導のミニマムスタンダード編集委員会(編)(2017).『保育実習指導のミニマムスタンダード2017年版』一般社団法人全国保育士養成協議会
- 3) 一般社団法人全国保育士養成協議会(編)(2018).『保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2:「協働」する保育士養成』中央法規
- 4) 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会(2004).「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ:保育実習指導のミニマムスタンダード確立に向けて」『保育士養成資料集』40.社団法人全国保育士養成協議会専門委員会(2005).「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ:保育実習指導のミニマムスタンダードの有効活用について」『保育士養成資料集』42.
- 5) 上記(1)
- 6) 上記(2)
- 7) 上記(3)
- 8) 現行は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(一部改正 子発0427第3平成30年4月27日)
- 9) 一般社団法人全国保育士養成協議会(編)(2018).『平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業(厚生労働省)「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」研究報告書』一般社団法人全国保育士養成協議会
- 10) 同上
- 11) 上記(3) pp145-148.

【引用文献】

- 相浦雅子・那須信樹・原孝成(編)(2008).『STEP UP!ワークシートで学ぶ保育所実習1・2・3『保育実習指導のミニマムスタンダード』対応』同文書院
- 相浦雅子・那須信樹・原孝成(編)(2020).『Let's have a dialogue!ワークシートで学ぶ保育所実習『保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2』対応』同文書院
- 相浦雅子・高濱正文・那須信樹・原孝成・野中千都(2008).『『保育実習指導のミニマムスタンダード』を軸とした保育所実習指導の実際に関する研究:九州管内保育士養成施設における保育所実習指導の実態調査を通して』『別府大学短期大学部紀要』27, 77-87.

- 一般社団法人全国保育士養成協議会 保育実習指導のミニマムスタンダード編集委員会（編）（2017）.『保育実習指導のミニマムスタンダード2017年版』一般社団法人全国保育士養成協議会
- 一般社団法人全国保育士養成協議会（編）（2018a）.『保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2—「協働」する保育士養成—』中央法規
- 一般社団法人全国保育士養成協議会（編）（2018b）.『平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」研究報告書』一般社団法人全国保育士養成協議会
- 尾崎司・中村教子（2017）.「現場連携による実習評価ルーブリックの開発（1）：保育所実習のルーブリック作成に関する予備的考察」『東京家政大学研究紀要』57（1），31-41.
- 鯨岡峻・鯨岡和子（2007）.『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房
- 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会（2004）.「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ：保育実習指導のミニマムスタンダード確立に向けて」『保育士養成資料集』40.
- 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会（2005）.「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ：保育実習指導のミニマムスタンダードの有効活用について」『保育士養成資料集』42.
- 全国保育士養成協議会（編）（2007）.『保育実習指導のミニマムスタンダード：現場と養成校が協働して保育士を育てる』北大路書房
- 高坂登志雄・和田明人・松田広則・千葉弘明（2002）.「保育者養成のあり方に関する研究（その1）：保育所実習と施設実習の実習生評価の結果から」『光星学院八戸短期大学紀要』25, 1-22.
- 千葉弘明（2002）.「保育者養成のあり方に関する研究（その2）：「模擬保育」導入の妥当性」『光星学院八戸短期大学紀要』28, 69-78.
- 千葉弘明（2008）.「「保育実習指導のミニマムスタンダード」を取り入れた保育実習のあり方について」『千葉経済大学短期大学部研究紀要』4, 11-21.
- 原孝成・高橋弥生・おかもとみわこ・日暮トモ子・當銘美菜（2021）.「卒業生のキャリア形成に関する初期調査：卒業生を対象とした質問紙調査からの検討」『目白大学高等教育研究』27, 93-101.
- 山田朋子（2021）.「新ミニマムスタンダードを基軸とする保育実習指導に関する一考察」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』53, 85-92.
- 和田上貴昭・那須信樹・原孝成（編）（2020）.『Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習『保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2』対応』同文書院